

HOPE



2012.4

No.22

[市立芦屋病院だより]

平成24年6月15日 新病棟完成・外来棟改修工事完了

新しい『市立芦屋病院』がオープンします!

病院長 あいさつ 「地域に密着し、開かれた病院をつくる」 市立芦屋病院 病院長 金山 良男



創立60周年となる記念すべき年に市立芦屋病院は新病棟が完成します。合わせて外来棟の大幅改修も完了し、年度の終わりにはなりますが駐車場の完備も行われ装いを新たにした病院が誕生します。同時に、電子カルテシステムが稼働し診療システムも一新され

ます。これまで以上に「信頼され選ばれる病院」であるための条件、良好な療養環境を提供し良質の医療を提供する条件が整いました。

診療の最前線を担い芦屋市の中核病院としての芦屋病院の役割がますます期待されるものとなることを自覚しております。病床数199床の病院としての規模は従来通りですが、緩和ケア病棟の創設、消化器センター、人間ドックセンターの開設に合わせ陣容は強化します。

医療を支えるのはつまるところ人です。芦屋病院の身上としてきたチームワークの良さ、機敏性、機動性を一層推進させ、理想的なチーム医療を目指します。

病院に求められるもの、価値観は多様化しています。一個の施設だけでそれらのすべてに応じることは難しくなりつつあります。特に、高齢化社会が到来した現在、市民・住民の生命・健康を守ることも一つの病院だけで完結させることは不可能となりました。皆様ひとりひとりに満足していただく医療を提供するためには、チームワークを病院外へも広げ、ほかの病院や開業の先生方との連携はもとより、介護や福祉の関係者、消防・救急の担当者等々との密接な連絡を取りあっていかねばなりません。

何よりも皆様のための病院です。私たち職員も視野を大きく広げ、必要があれば外へも出てまいります。病院内でも皆様のお役に立つような情報提供や市民参加の場を整えます。病院へのアクセスも改善されます。将来を担える芦屋市にふさわしい病院をつくりあげます。



平成24年4月より病院の経営理念が新しくなりました

基本理念

生命の尊厳を基本とし、安全で良質な医療を提供します
芦屋市の中核病院として、地域社会に貢献します

経営理念

あい(愛)
しあわせ(幸福)
やさしさ(優しさ)



新任Drのご紹介



緩和ケア内科 竹井 清純

1月より当院に着任いたしました竹井清純と申します。平成12年に東京医科大学を卒業後、大阪大学医学部付属病院で外科を研修の後、済生会富田林病院、市立芦屋病院に勤務しました。平成18年からは外科より緩和医療に転身し、六甲病院緩和ケア病棟で病棟専従医として勤務を行い、宝塚市立病院を経て現在に至っています。当院ではこの6月に緩和ケア病棟を開設します。痛みをはじめとする身体的苦痛や精神的苦痛、その他社会的苦痛やスピリチュアルな苦痛を全人的に捉え治療・ケアに繋げていきたいと思います。そして、がんという診断と同時にご家族にも同様な苦痛が生じており、ケアを通してご家族の苦痛の軽減も努めたいと思います。また、がんと診断された早期からの緩和ケアの介入によりQOLの向上および抑うつの改善、予後への影響も言われています。少しでもがんによる苦痛が軽減しその人らしく過ごせるよう、質の良い緩和ケアを提供していきたいと思います。



小児科 安部 信吾

4月より小児科に着任いたしました安部です。東海大学医学部を卒業後、高槻病院での臨床研修を経て、兵庫県立こども病院のアレルギー科および救急 集中治療科で研鑽を積ませていただきました。小児科医として、「患者さんが成長していく」ことを念頭に置くことを心がけています。数年先、10年先の患者さんの姿を思い浮かべながら、当たり前のことが当たり前にできるように、診療計画を立てなければならないこともあるからです。また、小児のアレルギーは食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息など、ありふれた病気が多い分野です。こうしたありふれた病気をきちんと診断・治療することこそとても大切なことだと考えています。一人一人の患者さんに合わせた丁寧な診療を目指しています。どうぞよろしくお願ひいたします。



臨床検査科 上田 一仁

この度、4月より縁あって市立芦屋病院臨床検査科で検査科長（技師長）としてお世話になることになりました上田でございます。これまで、大阪医科大学附属病院中央検査部で30年間、検体検査と格闘してきました経験を、芦屋病院活性化のために生かしていくべきと考えております。一方で、糖尿病療養指導などを通じて、患者さんの生の声を耳にした経験からは、「検査の説明が難しい。」「先生は忙しそうで聞きにくい。」「検査結果のポイントが知りたい。」などのキーワードが浮かび上がってまいります。正しい検査結果を、一刻も早く臨床側へお返しするという本来の責務に加えて、患者さん目線で応対の出来る、開かれた、患者さんに優しい検査科を目指して努力していく所存です。本来、「病院」というところは来ていただかないに越したことはないのですが、もし院内でお目にかかることがございましたら、お気軽にお声かけ下さい。何卒、よろしくお願い申し上げます。

第24回 芦屋さくらまつりに芦屋病院が出店します！！



今年も市立芦屋病院のスタッフが芦屋さくらまつりに出店しています。ぜひ気軽に立ち寄りください。皆さんのお越しを職員一同お待ちしています！

日 時 … 平成24年4月7日(土)、4月8日(日)

午前11時～午後8時

場 所 … 市民センター西側道路

(大正橋～国道2号業平橋) 業平さくら通り



緩和ケアについてのご案内

『緩和ケア』という言葉から何を連想しますか?と尋ねると「終末期医療」を連想する方が多いと思います。確かに「終末期医療」も『緩和ケア』の一部ですが緩和ケアはそれだけではありません。今回は西浦診療局長と緩和ケアチームの中心的メンバーである3名のスタッフで対談を行いました。



市立芦屋病院ホームページにも
緩和ケアに関する特設ページを設けました

<http://www.ashiya-hosp.com/gairai/kakuka/kanwacare/>

へアクセスしてみてください!



(写真左より) 緩和ケア内科 竹井主任医長、緩和ケア認定看護師 榮元看護師、日本緩和医療学会暫定指導医 西浦診療局長、緩和薬物療法認定薬剤師 岡本薬剤部長

西浦:「緩和ケア」と聞いて、ピンときた方はどれくらいおられるでしょうか?緩和ケアとは具体的にどのようなものですか?

榮元:がん患者さんの体や心のさまざまな苦痛を和らげ、QOL (Quality of Life = 人がより人間らしく生きていくこと) を高めていく医療を「緩和ケア」といいます。がん患者さんは、痛みや体のだるさなど様々な身体的症状をはじめ、気持ちの落ち込み、悲しみなどの心の辛さを経験されます。また、病気になったことで、仕事や日常生活に影響することもあるでしょうし(社会的苦痛)、「どうしてこんな病気になってしまったのだろう」「何のために生きているのだろう」といった苦痛(スピリチュアルペイン)も人それぞれにお持ちだと思います。がん患者さんの抱えるそれらの苦痛はすべて関連しており、「緩和ケア」とはそれを全人的に捉え行う治療であると言えます。

岡本:「ホスピス」「緩和ケア」と聞けば『看取りの場所』というイメージが強い人も多いかもしれません、そうではないというメッセージが伝わると良いですね。病気の診断や治療の早期から緩和ケアを受けることで、患者さんの苦痛を理解する医療従事者が身近にいることはとても大切です。

竹井:緩和ケアの対象は、がんと診断されたすべての患者さんです。その時々に問題となる身体の症状(痛み、吐き気、息苦しさなど)や精神症状(不安、不眠、抑うつなど)を緩和します。外来通院で治療が難しい場合は、入院して(6月以降は緩和ケア病棟が入院病棟となります)治療を行うことも可能です。

榮元:緩和ケア病棟では、こうしたがん患者さんの苦痛を取り除く治療を中心に行い、その人らしく最期まで生きることができますようケアを通してサポートをしていきたいと思っています。

竹井:そして、先ほど岡本先生が話されていたように、病気の診断がなされた早期から緩和ケアを受けた患者さんは、緩和ケアを受けられてない患者さんよりQOLが向上し、抑うつ状態になりにくいとも言われています。また、2~3ヶ月程長生きするということも分かってきています。

榮元:岡本先生のような薬物療法認定薬剤師の方がおられるごとに、患者さんの様子に合わせてより的確に薬剤の調整をすることが出来るので心強いですね。

西浦:緩和ケアの領域において、具体的にはどのようなサポートをするのですか?

岡本:緩和ケアの領域では、身体の症状や精神の症状が緩和されるように、最先端の薬物療法が常に提供できるよう情報

を収集し、お一人お一人との対話の中から効果と副作用を確認し、できるだけ短期間でお困りの症状が緩和されるように努めています。

竹井:それは心強い。頼りにしています(笑)。薬に対する誤解、特に副作用が気になり、患者さんもその薬を飲みたくないということもありますよね。

岡本:薬については、わかりやすく納得して飲んでもらえるようしっかりと説明をさせていただきます。

西浦:緩和ケア病棟でその他、行っていくケアはありますか?

榮元:医師、薬剤師による専門的な症状コントロールをしていくだけではなく、看護ケアはもちろんのこと、患者さんのみならずご家族の精神的なサポートを行い、しっかりと寄り添い、その人らしい人生をサポートできればと思います。

竹井:そうですよね。「がん」の告知を受けた時点から、患者さんのみならずご家族の苦痛(ご家族にとってのトータルペイン)も始まっており、現在はご家族を「第2の患者」としてご家族のケアの重要性が謳われております。ご家族にとっても心安らぐ医療およびケアが充実していくと、よりいいですよね。

西浦:最後に地域との関わりはどうですか?

竹井:緩和医療というものは病院だけが整備され上手くいけばよいというものではありません。治療の目標はあくまでその人がどのように日常生活を送り続けるかということが非常に大切です。この芦屋の地に緩和ケア病棟が開設されるということは、病院だけではなくこの地域に緩和ケアという概念が根付いていかなければなりません。病院では病院の務めを、在宅では診療所を中心とした医療・福祉の務めを行い、住み慣れた場所でシームレスな(継ぎ目のない)緩和ケア・医療の連携・構築の一役に立てたらと思います。

榮元:市立芦屋病院での緩和ケアが患者さんやそのご家族、地域との“架け橋”となればいいですね。

岡本:市立芦屋病院には、様々な緩和ケアのプロフェッショナルがいます。ですから、チームワークを生かしてより専門的な緩和医療、緩和ケアの提供が出来るといいですね。

竹井:緩和ケア病棟は新病棟の最上階、4階東病棟にできます。病棟からは芦屋の市街地が一面、大変きれいな景色が見られることでしょう。そして、専門のスタッフによる、より良質の緩和ケアを提供できるよう努めさせていただきます。

西浦:本日は、本当にありがとうございました。

～完成間近!! 新・外来棟のご紹介～

昨年の8月から改修工事を行っていました外来棟の改修工事が4階総合受付スペースの改修のみを残し、ほぼ完成となりました。今回の外来棟の改修工事では、外来棟5階部分に各科の診療スペースを集約し、外来棟4階には総合受付・会計部門の設置と患者待合スペースが整備されています。外来棟3階には臨床検査科と救急外来部門が整備され、外来棟の様子も大きく変わりました。今回は完成間近の新しくなった外来棟の様子をご紹介します。

《外来棟5階》

今回の改修では各科の診療スペースを5階に全て集約しており、外来診療で特に利用の多い中央採血室、心電図、エコーなどの検査スペースについても同じ5階に設置しています。これにより診療科の場所が分かりやすくなり、患者さんの移動についても最小限に抑えることが可能となりました。診察室は明るい雰囲気に新調され、化学療法室や処置室についても患者さんのプライバシーに配慮された空間に整備されています。

また、7月からは院内に新しく導入する『電子カルテシステム』が稼動いたします。これに伴い院内全体の予約診療システムの見直しを行い、番号表示の整備を図ることで診療、検査等の待ち時間短縮に努めます。



外来棟5F
の様子



ご迷惑をおかけして申し訳ありません



外来棟3F 救急外来の様子

《外来棟4階》

4月より外来棟西側(現在の総合受付部門・薬剤科スペース)の改修工事がスタートします。改修後は各種受付窓口、支払窓口が西側センターに設置され、患者さんに分かりやすく動線に配慮された総合受付窓口が完成します。その周囲の待合スペースでは患者の皆さんにゆったりくつろいでもらえる空間作りがなされており、すぐ隣には待望のコンビニエンスストアが入ります。また、地域の医療機関との窓口である地域連携室や患者さんのプライバシーに配慮された服薬指導室、栄養指導室等の各種相談窓口も新しく整備される予定となっています。

《外来棟3階》

外来棟3階には臨床検査科と救急外来部門が設置されています。今回の改修工事により救急外来部門は診療スペースがオープン化され、スタッフ動線が改善されることにより更なる診療の即時性を可能にしました。また、患者さんやご家族の待合スペースについても広く快適な空間へ生まれ変わりました。



外来棟3F 検査室の様子



6月まで改修工事は続きますが、まもなく新病棟も完成し『新・芦屋病院』が完成します。患者の皆さんにはもうしばらくの間改修工事に伴うご不便をお掛け致しますがご了承下さい様お願い致します。

◇市立芦屋病院 人間ドックのご案内◇

暖かな気持ちのよい季節がやってきましたね。こんな動きやすい季節こそ、自分の体を見つめなおすきっかけに人間ドックを受けてみませんか?日頃健康に自信のある方も危険な生活習慣病やガンを早く発見する為に年に1度の検診は必ず受けましょう。



芦屋病院の人間ドックはとても充実した検診内容になっています

人間ドックはどこで受けても同じと思っている方はいませんか?それは大間違い!同じような料金体系の人間ドックでも、その検診内容の充実度は医療機関により全く異なります。芦屋病院の人間ドックは検査内容が非常に豊富で、大変充実した検診となっています。例えば、眼科の検査が含まれている人間ドックコースは多々ありますが、その後に眼科の医師が診察も行ってくれる人間ドックはなかなかありません。このようにチーム医療の総合力を生かして各専門医が診察、検査を担当しているのが当院の人間ドックの大きな特徴です。検査内容についても通常オプション項目になりやすい乳がん検診(マンモグラフィ撮影)、子宮がん検診が基本項目に含まれており、男性の方には前立腺がん検診を実施しています。また腫瘍マーカー検査が豊富であり、64列の高性能CTによる胸部の撮影など検診の内容については自信を持ってお勧めすることができます。4月中旬には新しい人間ドックセンターが完成し、9月以降には新しい検査とサービスを追加した新・人間ドックプランがスタートします(料金改定を予定しています)。ぜひ芦屋病院で人間ドックを受診してください。国保・後期高齢加入者の方には市からの半額助成金制度もご利用頂けるのでいつでも気軽にご相談ください。

◆◆◆市立芦屋病院 人間ドックプラン◆◆◆

検診日 毎週月曜日～金曜日 午前9時～午後3時頃まで

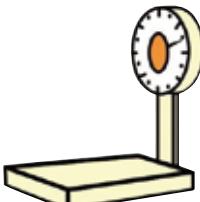
基本料金 男女共45,000円(税込み)

検診内容 身体計測、診察、各種血液検査(一般・血糖・脂質・臍機能・腎機能・肝機能・肝炎ウイルス・腫瘍マーカー検査等)、胸部CT撮影、胃カメラ(又は胃レントゲン)、エコー、心電図、眼科検査、聴力検査等含む。その他男性の方には前立腺がん検診、女性の方には乳がん検診、子宮がん検診含む

オプション検査	ピロリ菌検査(便) 1,500円
	胃がんハイリスク検査(採血) 3,000円
	脳ドック検査(MRI) 25,000円

4月23日より 人間ドックセンターがオープンします!!

新病棟に新しい人間ドックセンターがオープンします。センターはリゾートスタイルでまとめられており、一瞬ここが病院であることを忘れてしまうような空間に仕上がっていきます。9月から新・人間ドックプランもスタートします!!お楽しみに!!



人間ドックは1日で終了し、その日のうちに結果判定までお知らせできます。(報告書は後日郵送致します)ぜひご夫婦やお友達とご一緒に人間ドックへお越しください。

☆☆ 人間ドックのお申し込みは
下記までお願いします ☆☆

0797-21-5205

(予約受付時間: 平日午前9時～午後4時)

地域医療まもり隊～開業医の先生紹介～

第5回

岡本クリニック 院長 岡本 祐三 先生



岡本クリニックは、JR芦屋駅のすぐ北、老舗天ぷら屋「天がゆ」さんの西の細い道を入ったところにあります。12年前から開業し、内科とともに心療内科を専門としています。大学医学部を卒業した頃に、スカッとした治療法が確立されていない分野を手がけようと思い、精神的な葛藤が様々な身体の症状を引き起こす「心身症」、ややこしい心の不調や身体が不自由で自宅で療養しておられる高齢者のケアを支援しようと思い、往診もするためには地域内に居住すべきと考えました。丁度介護保険制度が始まり、在宅ケアについては10年前とは比較にならないほど、社会資源は整いました。訪問看護ステーションが増え、デイ・サービスの送迎バスが街を行き交い、介護施設も目を見張るほど整備されつつあります。病院勤務していた頃と比べると、今昔の感があります。市立芦屋病院には、検査や入院依頼など、常日頃からお願いしており、「地域連携室」には毎週のように電話をして、スタッフの皆さんにはお世話になりっぱなしです。今後とも芦屋病院とは連携を深め、地域医療に貢献したいと願っています。

あづみクリニック 院長 安住 吉弘 先生



平成16年2月に松ノ内町で開業してから8年が経ちました。

循環器が専門でしたが、地域医療に携わるようになって地元の方のニーズに答えているうちに健診・予防接種や在宅医療も行うようになり、遠方の学会には行けなくなりました。フットワークの軽さが長所のつもりですが、フットワーク良好な往診車でさほど広くない芦屋市内を走り回っていても身体が二つ欲しいと思えるほどの過密スケジュールに陥る事もあり、個人開業医の限界と言うものも実感させられる事がしばしばあります。市立芦屋病院は地域の中核病院として緊急にも快く対応して頂いており常日頃より感謝いたしております。

24時間365日対応の診療所としてフットワークの軽さや小回りのきく利点を生かしながら地域の病院と連携を図り、皆様のご要望に応えられるよう頑張っていきたいと考えております。

※市内の地域別に順番にご紹介させて頂きます。

病院からのお知らせ

1. 眼科手術が4月から再開します!

常勤医師不在により、しばらくの間、眼科の手術については対応しておりませんでしたがこの4月より、眼科の手術を再開する事になりました。手術は現在も外来診察を担当されている家久来医師が担当され、毎週木曜日の午後が外来手術日となります。日帰り手術だけではなく、白内障の手術など入院後の手術対応も可能ですので気軽に眼科までご相談ください。

2. 4月より整形外科の木曜日診察を休診とさせて頂きます。

院内の手術体制の変更により整形外科の木曜日の診察は休診とさせて頂きます。

患者さんにはご迷惑をお掛け致しますが、ご了承くださいます様お願い致します。



4月

院内の催し・各教室のご案内

芦屋病院マチネコンサート

テーマ 奏でる心のアルバム

日 時 4月29日(日)午後2時30分～午後3時30分

場 所 外来棟5階 待合ホール 黄色いピアノ前

出演者 小堀 英郎(ピアノ)



糖尿病教室

テーマ 糖尿病の治療・療養について

日 時 4月13日(金)午後1時30分～午後3時

場 所 市立芦屋病院 南病棟1階講義室

参加料 無 料 問い合わせ 市立芦屋病院 栄養管理室

医療よろづ相談

日 時 毎週火曜日 午前10時～12時

場 所 芦屋市保健福祉センター

当院の看護師が医療相談を行っています。秘密厳守、料金無料です。
ぜひお気軽にご相談ください。

両親学級

テーマ お産の経過・あかちゃんのお風呂

日 時 4月14日(土)午前10時～12時 場 所 市立芦屋病院 南病棟1階講義室

対 象 妊娠22週以降の妊婦さんとパートナー(5組10名)

問い合わせ 市立芦屋病院 産婦人科外来(電話は13時以降)

2012年春の公開講座のご案内

今年も内容盛りだくさんでお送りする公開講座の春のテーマが決定致しました。

毎年4月は当院の佐治事業管理者による公開講座を実施しており、今年で3回目を迎えます。

5月には新病棟に新しく完成する緩和ケア病棟についての初講座も実施します。

ぜひ今年も公開講座に足をお運びください。

開催場所 … 芦屋市民センター 401号室

時 間 … 午後2時～午後3時30分

受講料 … 1回 200円



開催日	内 容	講 師
4月21日(土)	市立芦屋病院の未来 ~Part3 新病院完成近し~	市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆
5月19日(土)	新設される緩和ケア病棟 ~当院の目指す緩和医療~	市立芦屋病院 緩和ケア内科医師 竹井 清純／緩和ケア認定看護師 榮元 由香
6月16日(土)	熱中症～実状と予防～	市立芦屋病院 救急看護認定看護師 柳 良美

※急きょ講師・テーマが変更することがあります。

『芦屋市健康教室』が始まります！！

市立芦屋病院及び芦屋市(地域福祉課・健康課・福祉センター)の共催により、この春から福祉センターにて『芦屋市健康教室』を開催します。市民の健康増進を図ることを目的に毎回様々なテーマで約1時間講演を行います。日頃芦屋病院の診療を担当している医師や各種コメディカルが専門的な話を分かりやすく講演します。

温かくなるこの季節、ぜひお気軽にご参加ください。

開催場所 … 芦屋市保健福祉センター3階 多目的ホール

時 間 … 午後3時～午後4時40分

受講料 … 無 料



開催日	内 容	講 師
4月25日(水)	胃がん予防を目的としたリスク検診とピロリ菌の除菌について	市立芦屋病院 消化器内科部長 竹田 晃
5月23日(水)	緩和ケアと疼痛緩和	市立芦屋病院 緩和ケア内科主任医長 竹井 清純／薬剤部長 岡本 稔晃
6月27日(水)	糖尿病と食事療法について	市立芦屋病院 糖尿病内科部長 紺屋 浩之／管理栄養士 澤田 かおる

※急きょ講師・テーマが変更することがあります。

事業管理者 のつぶやき

市立芦屋病院 事業管理者 佐治 文隆

木の葉の切符

春の季語に「山笑う」という言葉があります。木々に新芽が綻びる春の山は、新たな生命の誕生を喜んで笑っているように見えるから生まれた表現でしょう。この季節、みるみる成長する若葉に強い生命力を感じます。なかでも切り株や根元の幹から直接出てきた新芽は、蘖(ひこばえ)と特別に呼ばれるだけあって、その生命力に思わず笑みが浮かぶとともに感動すらおぼえます。若葉、青葉の季節は「生命(いのち)」がもっとも身近になる時期かも知れません。

最近、「生命(いのち)」の大切さを深く心に印象づけられたのは、映画「サラの鍵」を観た時です。物語は第二次世界大戦中フランスの親ナチス、ヴィシー政権下で起こったユダヤ人狩りに端を発します。幼い弟を納戸に鍵をかけて隠し、フランス警察に連行された少女一家の悲劇を描きながら、偶々アパートの同室に入居することになった女性ジャーナリストによる少女サラの運命の追求が、現代と過去を交互にフラッシュバックさせて、観客をたたみ込むように結末まで引っ張ります。少女の飽くなき生命への執着と挫折、事実を丹念に追うジャーナリストの私生活、とくに高齢で妊娠し夫に中絶を迫られる妻の葛藤が、「いのち」の重みをメッセージとして伝えています。

人の「生命(いのち)」はいうまでもなく女性の身体の中で育まれます。「生命(いのち)」を受け入れるため、成熟女性には月々定期的な訪問客が訪れます。映画「不惑のアダージョ」では初めて訪問客を得て動搖する少女に、主人公の修道女が木の葉一枚一枚渡しながら、「少女がお母さんになるための切符のようなものよ」とやさしく語りかけます。「私は切符を使うことが無かったけどね」と続ける修道女に少女が返した言葉「でも貴女はこうして切符を配り続けたわ」にもつとも感銘を受けました。更年期障害に苦しむ修道女を赤裸々に描いた話題作で、ひとつひとつのシーンが女性監督らしいきめの細かい作品でしたが、ここでは木の葉が象徴的に

使われていました。ミニシアターで上映後に、脚本も担当した井上都紀監督のティーチイン形式のトークが偶然あつて、言葉を交わすことが出来ました。三十代のまだ若い女流監督で、将来が大変嘱望される方と見受けました。



木の葉と言えば、初心運転者に「若葉マーク」を付けることが義務づけられてちょうど40年になります。一方、通称「紅葉マーク」は15年前に75歳以上の高齢運転者の努力義務規定として導入されましたが、5年後に対象を70歳以上に引き下げられました。しかし、紅葉のデザインが枯れ葉に見えると反発を受け、昨年から「四つ葉のクローバー・マーク」に変更されました。2008年から施行されている後期高齢者医療制度も「後期高齢者」の名称に不快感をおぼえた対象者が多いといいます。とかく老人は、老人を指摘されることに敏感に反応します。これは自分が感じる自分の年齢つまり主観年齢と曆年齢の間に差があるためと考えられます。しかもこの差は高齢になるほど大きくなるようです。アメリカの調査では、60代男性で15~16歳、女性では22~23歳のギャップがあったといいます(佐藤真一著「ご老人は謎だらけ」光文社刊)。日本人の場合それほどの開きは無いにしても、主観年齢が10歳くらい若い人はざらでしょう。かく言う私も…。

未曾有の高齢化社会を迎えて、老人行動学が解明したことのひとつは、お年寄りはネガティブをポジティブに変えるように順応していることです。高齢患者の心と身体のアンチエイジングに貢献して、さらにいっそう人生の質を高める医療者であり続けたいのです。もっとも「恋愛に優るアンチエイジングは無いのよ」と言い放った女性もいますが…。

事業管理者のつぶやきについてはホームページにも連載しておりますのでぜひご覧下さい。

市立芦屋病院 ご案内



-----交通案内-----

JR 芦屋駅、
阪急芦屋川駅から



<http://www.ashiya-hosp.com>

市立芦屋病院について
さらに詳しい情報については、ホームページでご覧下さい。



日本病院機能評価機構 認定施設 (ver 6)

市立芦屋病院

〒659-8502 芦屋市朝日ヶ丘町39-1
TEL:0797-31-2156 FAX:0797-22-8822
ホームページ <http://www.ashiya-hosp.com>